



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 61 《中寺尚志 院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 41 《黒崎由利子 看護部長》
- ◆研修医のページ NO. 44 《稲本隼佑 先生》
- ◆平成 27 年度しまね地域医療支援センター活動報告
- ◆平成 27 年度医師事務補助者研修会
- ◆平成 27 年度第 2 回しまね地域医療の会



NO. 61

西部島根医療福祉センター

院長 中寺 尚志



西部島根医療福祉センターは他の病院や診療所と違い、主に障害児者に対して医療と福祉

(入所や在宅支援を通して療育や生活支援を行っている) を実践している施設です。この様な施設になぜ、医療が必要かという点、彼らが生活し、成長していく日常に医療が必要であるからです。地域の事情もあり、今では障害のない人びとの地域医療も担う施設となっています。

さて我が施設では特徴ある医療を提供しています。

まず整形外科です。脳性麻痺を代表とする脳原性障害児・者の痙縮や変形拘縮に対してリハビリテーション、ボトックス注射、手術(整形外科的選択的痙性コントロール手術、バクロフェン髄腔内療法など)を行い、運動発達促進や機能改善を行っていること、先

天性内反足、筋性斜頸、發育性股関節脱臼などの小児整形外科領域の疾患に対して手術など積極的に取り組んでいることです。特に乳児股関節健診ではエコーを使い、最近増加している歩行開始後に発見されるような診断遅延が発生しない様に取り組んでいます。また、中高生のスポーツ傷害(スポーツドクターとしてレクレーションレベルから国体選手のメディカルチェック、国体帯同)、障害者スポーツにも対応しています。

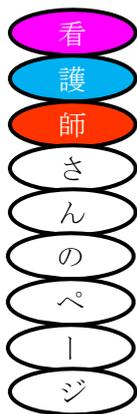
次に小児科です。当センターの小児科は脳神経小児科で脳性麻痺、染色体異常、筋ジストロフィーなど神経、筋疾患を主に診ています。ですから一般の小児科とは違うものです。近年は発達障害、小児心身症が非常に多く、外来の多くの時間を割くようになってい



ます。また市町村が行っている乳児健診、1歳半健診、3歳児健診など、東は邑智郡美郷町から西は鹿足郡吉賀町までの島根県西部の多くをまかっています。

す。さらに島根県高次脳機能障がい者・浜田圏域相談支援拠点施設としても、研修や相談、診療を行っています。入所者は重症心身障害児者が多くを占め、14名の方が人工呼吸器を使用しています。彼らが輝く生活をするために必要な医療を提供しています。

医師も看護師も大学や専門学校では障害児者医療について詳しい講義、実習、研修がありませんので関心が薄いようです。障害児者であっても私たちが何ら変わりありません。私たちと同じように生きる権利、治療を受ける権利があります。当センターでは是非障害のある方々への治療、それだけでなく彼らが生きていて良かったと思える様に支援すること、物言えない彼らの意思に寄り添う医療をここで学んで欲しいと思います。



NO. 41

出雲市立総合医療センター

看護部長 黒崎 由利子

当院は平成17年に平田市と出雲市外4町が合併し「平田市立病院」から名称を新たに10年を迎えました。



出雲市の東部に位置し、北側にはカラフルな（しまねっこ）

を乗せて走る一畑電車が走り、南側には斐川平野を望む自然豊かな環境にあります。病床数は

199床で、一

般病床107床、回復期リハビリテーション病床40床、医療型療養病床5299名、看護補助者46名の看護体制（平成28年3月末）、看護師の平均在職年数は15年と経験豊富です。平成23年度からは近隣の看護学生の実習施設となり、新人看護師（3〜4名/年間）の採用も増えつつあります。

当院の役割と機能については、高齢化が進む中で一人暮らしや施設からの紹介も多い地域の特徴を踏まえ「5つのフラッグ」を掲げています。①回復期リハビリテーション医療は社会復帰支援の重要な役割を果たします。リハスタッフ（理学・作業・言語聴覚士21名）と共に、ベッドサイドの日常生活を支えるのがリハビリ担当看護師です。

患者さんのもてる能力を評価し、根気強く見守り支援しています。定期的に開催するボランティア組織の患者家族会「まめです会」には、多くの看護師と看護補助者が参加協力しています。

②健康管理センターは生活習慣病の予防として、年間を通して多くの健診を実施しています。検査室をあちこちと移動せずに検査が受けられるようハード面の工夫に加え、特に女性には女性の医師・検査技師が対応する等、毎年検査したいと思っ頂けるように配慮しています。③高齢者を中心とする急性期医療としては、内科系と外科系2つの一般病棟があります。合併症や再発を繰り返す心身の安定しない患者や高齢者の方に寄り添った看護に努めると共に、緩和ケアアドバイザーやがん

化学療法認定看護師を中心として、地域の開業医とも連携した治療や退院支援を行っています。年々進化する内視鏡分野では、内



化学療法認定看護師を中心として、地域の開業医とも連携した治療や退院支援を行っています。年々進化する内視鏡分野では、内

視鏡技師（看護師）4名を配置し、積極的に学会参加や看護研究を進めています。救急対応等の幅広い看護力が発揮できるように、院内BLS研修には全職員の参加を目指し、看護部ではフ

イジカルアセスメントのインストラクター講習会にも参加しています。また、昨年

から地域とのふれあいのひとつとして多職種が講師をつとめるミニレクチャー「きいてみたい豆知識」を院内で開催するなど、地域の皆様と繋がる新たな取り組みも始めました。対象となる方の症状や背景は一人ひとり

異なりますが、それぞれの皆様の期待にそえるようなケアが提供できるように多職種と協働して取り組んでいます。



のページ

NO. 44

益田赤十字病院

2年目研修医

稲本 隼佑

みなさんこ

んにちは、益

田赤十字病院

2年目初期研

修医の稲本隼

佑です。益田



赤十字病院は、昨年末に新病院へと移転し、島根県西部における医療拠点として、新たな気持ちで充実した日々を過ごしています。

当院は各診療科の垣根がなく、また医師と他の職種のスタッフも一体となり、日々地域の医療に励んでおります。

さて、私がこの1年に研修してきたことを簡潔に紹介させていただきます。春からの最初の数か月間は同期の研修医3人と共に、総合診療科や救急科を中心に、医師として出発するために必要な基本的な手技を習得するための研修を行いました。指導医と共に患者さんを診察することにより、採血手技、腹部エコーなど基本的な技術を学びました。また、多くの患者さんやコメディ

イカルの方と接する中で、「本当に医師になったのだ」「責任のある職業だな」という実感がじわじわと湧いてくるのもこの時期でした。その後、各研修医

は選択の診療科に分かれ各1〜2ヶ月の研修を行い、津和野共存病院（地域研修）や松ヶ丘病院（精神科研修）でも大変お世話になりました。

当院の特徴は、ファーストタッチから研修医主体で、アセスメント、プランニングまで行い、指導医に相談させていただき、適切な対応を検討する、

当院の特徴は、ファーストタッチから研修医主体で、アセスメント、プランニングまで行い、指導医に相談させていただき、適切な対応を検討する、

という流れが基本となっております。私は、当初はわからないことだらけで、あわてふためいたり、周りに迷惑ばかりかけておりましたが、1年たった今、少しずつ落ち着いて診療ができるようになり？成長できたかなあと思います。

2年目には高知赤十字病院への救急医療研修やその他、希望の診療科によっては大学病院に研修に行くことも可能です。

また、益田赤十字病院には、医学生さんがよく来てくださいます。単なる見学だけに留まらず、指導医や研修医のもとで実際に患者さんとお話をしたり、初診外来の問診をとったり、他にも学生さんの要望に応えフレキシブルな実習を行うことができます。実習後には懇親会など交流の場を持つようになり、他にはないことであると幸いに好評もいただいております。

これからも常に地域の患者さんのために、精進を怠ることなく日々邁進していきたいと思えます。

平成27年度 しまね地域医療支援センター活動報告

しまね地域医療支援センター
設立3年間で振り返って

平成25年3月、若手医師がしまねを軸足に安心して研修・勤務できるようなキャリア形成を支援する体制を構築するため、しまね地域医療支援センターは一般社団法人として『オールしまね』を合い言葉にスタートを切りました。

4月1日、私が雲南市立病院から派遣された時は、事務所は机と電話、パソコンだけの何もない状態、まさにゼロからのスタートでした。「これから何をどうしていこうか？」と専任医師の先生方と一緒に毎日ミーティングを重ね、事業目的と効果や課題を一つひとつ確認し、共通認識を持ちながら事業を進めてきました。今振り返ると知識もなく、はじめて経験することばかりで、不安と期待の連続の毎日でしたが、一生懸命勉強し、前傾姿勢で行動することをモットーに全力疾走してきました。

この3年間で、キャリア面談者数は年間100名を超え、登録者との顔が見える関係が構築できました。また、初期臨床研修医合同研修会の開催、臨床研修病院連絡会の設立、圏域別市町村・医療機関意見交換会の開催や地域への個別訪問を通じ、若手医師がしま

ねを軸足にキャリアアップする環境とそれを支援する体制が強化されました。さらに、島大医学部との連絡協議会を設置し、また個別に各教授との意見交換を重ねることで連絡体制が強化されつつあると実感しています。まさに、『オールしまね』の連携体制が図られ、支援体制の礎ができたと思っています。今後は、この連携体制を更に強化しつつ、若手医師の県内定着と地域偏在の解消という新たなステージを目指すこととなります。

この3年間で一番の思い出は、多くの若手医師や研修医、医学生と出会い、信頼関係が築けたこと。そして私自身、県内外の関係者の皆様と一緒に島根県の医療充実のための仕事ができたことです。本当にたくさんのお出合いに感謝しています。専任医師の先生方には、常に温かいサポートを受けてきました。一から法人を立ち上げて軌道に乗せるという非常に貴重な経験をしました。この3年間は私の人生の中で一番成長できたという達成感と充実感を得ることができま



た。支えて頂いた関係者の皆様には本当に感謝いたします。しまねの医療は多くの人の熱意で支えられています。皆が同じ方向をみて力を合わせれば、必ずしまねの医療は充実すると確信しています。

4月からは、雲南市立病院でこの経験を生かし、地域医療の充実に努めます。今後ともご指導、ご鞭撻頂きますようお願いいたします。

【しまね地域医療支援センター 勝部】



平成27年度 医師事務補助者研修会

第2回医師事務補助者研修会を1月23日にニューウェルシティ出雲で開催しました。

この研修会は、県内の医師事務作業補助者の技術向上、情報交換を目的に、昨年2月3日に島根大学地域医療支援学講座が主催した第1回に引き続き開催しました。

今回はNPO法人 日本医師事務作業補助研究会 理事長の矢口智子氏を

お招きし、「医師事務作業補助者のチーム医療における役割と職種確立に向けて」をテーマにご講演いただきました。矢口氏が勤務されている金沢脳神経外科病院での医師事務作業補助者も含んだチーム医療の実態や、日本医師事務作業補助研究会での医師事務作業補助者の職種確立に向けた取組みをご紹介いただきました。

つづいて、浜田医療センター、松江赤十字病院、飯南病院から、各病院での医師事務作業補助者に係る取組みについて発表いただきました。

その後、70名を超える参加者が10班に分かれ、情報交換と発表をすることにより、様々な情報を共有することができました。



参加者は医師事務作業補助者のほか、「医療機関の事務担当者もおり、「医師事務作業補助者の職務内容は確立されておらず、手探りの状態だが、他の医療機関における取組みや全国的な動きを知ることができてよかった」どの医療



機関でも抱えている悩みや問題は似通っており、それぞれの医療機関の取組みの紹介や情報交換を通じて、問題解決の糸口をつかむことができた」という感想も聞くことができました。

参加者の皆さんは医師事務作業補助者の現状や役割を学ばれ、交流を深めて様々な情報交換ができたことと思います。この研修会を通じて、県内医療機関における医師事務作業補助者の職務内容の確立やチーム医療への参加が進み、医師が診療業務に専念できる環境の整備につなげられることを願っています。

【医療政策課 三木】

平成27年度 第2回 しまね地域医療の会

2月6日(土)に、「平成27年度第2回しまね地域医療の会」を出雲医師

会館と隠岐病院をテレビ会議で結び開催しました。この会は、自治医科大学卒業医師や赤ひげバンクを通じて県内に着任された医師等が相互に情報交換、意見交換する場として、平成16年から毎年2回開催しています。

今回は、これまでで最多の57名の先生方にご出席いただきました。島根県の出身でいらっしやる自治医科大学の

安食准教授等にオブザーバーとしてご参加いただきました。



会議は、会長である中川病院事業管理者の挨拶で始まり、県医療

政策課、しまね地域医療支援センター、島根大学医学部地域医療支援学講座から説明をした後、各地域から現状報告等がなされました。

この会の後は、場所を移して懇親会を行い、より親密な情報交換を行うとともに、会員相互の親交を深めました。

【医療政策課 富田】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryout@pref.shimane.lg.jp

ホームページ: [島根の医師確保対策](#)

検索

